

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	長崎大学	申請大学長名	片峰 茂
申請類型	オンリーワン型	プログラム責任者名	調 漸
整理番号	005	プログラムコーディネーター名	森田 公一
プログラム名	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

熱帯地域を中心とした開発途上国には世界人口の8割を超える人々が生活しており、今なおマラリア、デング熱、コレラ、トリパノゾーマ症などの熱帯特有の感染症により多数の患者が発生している。一方、先進国と称される温帯に位置する国々も国外からもたらされる新興感染症により、重大な健康被害、経済的損失、社会不安を蒙っている。西ナイル熱の新大陸への伝搬、重症呼吸器症候群（SARS）の出現、新型インフルエンザパンデミックなど、その事例は記憶に新たどころである。これら熱帯病・新興感染症への迅速かつ適切な対応をとり、国民ならびに世界の人々の健康を守るには国境を越えて地球全体の視点からの協動的で適切な対応が必要とされる。従って国、地域、地球規模のさまざまなレベルにおいて、熱帯病・新興感染症対策分野の教育・研究開発の推進、あるいは長期的な視野に立った疾病対策の立案、計画、実行が求められる。また、同時に新興感染症による国際感染症危機に際しては科学的根拠に基づいた迅速な対応を主導できる優れたリーダーシップを持った国際的人材の育成強化が急務である。

この様なグローバルリーダーに求められる資質には次の項目が必要である。

1. 病原体についての幅広い基礎知識を有すること
2. 感染症診断についての理論と実践を高いレベルで理解していること
3. 感染症治療と予防についての先進の知識を有すること
4. 感染症疫学の理論と実践の高いレベルで理解していること
5. 先進国のみならず開発途上国の保健衛生の現状に精通していること
6. 国際的な感染症対策の枠組みやシステムとその機能を理解していること
7. 国際感染症危機管理に関する知識を有していること
8. 対策事業を効果的に実施できるマネジメント能力を有していること
9. グローバル化する経済、地球気候変動、人口問題などの医学以外の関連知識を有すること

10. 国際的発信力と調整力を担保する英語によるコミュニケーション能力を有すること
11. 異文化を理解し対応する能力を有すること
12. 高い倫理感を有していること

以上のような認識のもと、本プログラムでは本学の大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻に「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」を設置し、「熱帯に蔓延する感染症および国際的に脅威となる新興感染症について幅広い知識と技術、およびグローバルな俯瞰力を備え、教育研究の推進と疾病制御の実践においてリーダーシップを発揮できる国際的人材を育成すること」を目的とする。

2. プログラムの進捗状況

- 1) 第1期生受け入れ（25年4月）に先立ち、プログラムの講義・実習、海外拠点研修に関わる特任准教授および助教を採用した。
- 2) 教職員用PC及び学生貸与用PCを購入するとともに、最先端感染症教育実習機器を導入し、学生の受け入れ環境を整備した。
- 3) 海外拠点（ケニア、ベトナム）との迅速・円滑な連携体制を整えるため、遠隔教育・ビデオ収録システムを購入した。
- 4) 2年次に行う海外研修に向けて、教育研究プログラム等に関する打ち合わせを行い研修内容の充実を図った。
- 5) 全学年を通じて行うコミュニケーションスキル教育のため、言語教育教材の開発を行った。
- 6) プログラムを円滑に運営するため、事務スタッフを雇用するとともに、製薬団体・省庁関係者、国際機関、民間NGOなどの連携教育研究機関関係者を招聘し、プログラム運営・評価のための第1回ステークホルダー会議を開催した。
- 7) 各国大使館および海外拠点にパンフレットを送付したほか、ホームページを開設し、優秀な人材の確保を図った。
- 8) プログラム発足に連動させ、第1回長崎大学リーディング国際シンポジウムおよび市民シンポジウム「リーダーシップを考える」を各1回開催し、プログラムの目的・概要をPRした。
- 9) 大学院医歯薬学総合研究科における関連規程の改正を行うとともに、カリキュラム・シラバスの整備および奨励金規程・同ガイドラインを制定した。